

雪が降ると、本格的な冬の到来を感じる。雪はまるで小麦粉のようで、踏むとギョッキョウという音がする。金沢と違いべちょべちょとした感じではない。雪が降った後の木々は真白に化粧がつく。雨が降った後の木々はきらきらと輝く。これは、あまりの寒さに枝についた雫がそのまま凍ってしまうからだ。とても綺麗である。表は毎日氷点下近くの気温である。今月の報告書は、秋学期の履修授業の結果と冬休みの様子を報告する。

秋学期の履修科目について

12月の前半で秋学期の授業が終了し、Final(学期末テスト)や最終提出レポートがあった。私は、以下に示す授業を履修した。

ESL 113 English Structure & Paragraph Development 3 hours

本授業は英語を母国語としない生徒を中心に行われる授業である。私を含め生徒7人が、全員日本人だった。授業では、文章校正やレポート作成が中心だった。担当教員は授業中に質問を投げかけるが、ほとんどが率先して返答しないため、授業の雰囲気はいつも重かった。なぜか指されるまで答えないというのは、日本人独特のものなのか、本人の問題なのかわからない。同じ留学生の五十川君はそんな授業の空気をいつも変えていた。私も負けないように発表するように努めたが、的確な答えを言うことがあまりできなかった。隔週に提出する Journal や宿題など英語での文章作成に、最初は大変だったが、回を重ねるごとに英語での文章作成は苦痛に感じなくなった。それよりも自分の考えをいかにうまく説明するかという方が大変だった。日本語も英語も的確な文章や説明の方が当然理解しやすい。これはやはり語彙をいかに知っているかという問題だろう。成績は私の想像以上の点がもたらされたため驚きである。授業以外にも tutor による文章添削やアドバイスが計6回行われた。私の tutor は日本生まれのアメリカ育ちの日本人だった。一対一の tutor との時間はとても充実していた。しかし私の文章は日本の文章校正が混じり、英語のものとは違うと何度も指摘された。これはまだ日本語を考えて英語を書いているからなのだと思う。やはり英語で考え、英語で書けるようになりたい。

ME 300 Thermodynamics 3 hours

本授業は熱力学の授業であり、金沢工業大学(以後:KIT)でも履修していたが、以前の報告書で記した通り、英語による授業は、私に大きな壁をぶつけた。隔週の宿題提出はほとんどが未完成か、ただ式が並べられた説明のないもので、あまり良い点を得ることができなかった。唯一の救いは二回の Midterm (中間テスト)及び Final は何を見ても良いというもので、私は電子辞書と教科書をふんだんに駆使して臨んだ。二回目の Midterm は自分では満足いく点が取れたが、残りの二つはそう甘くはなかった。履修当初ではグループ活動がないと記されていたため安心してしたが、後半に担当教員の思いつきなのか、急遽グループ活動が一つ加わった。これで英語の授業以外の科目にグループ活動があることとなった。私達のグループは話し合っただけで燃料電池についてレポートを書くことにした。私は KIT の研究室内で燃料電池の実験等にかかわったことがあるため、それがとても役立った。成績は良い点とは言えず、私の想像通りのものとなった。

ME 340 Model and Analysis of Dynamic systems 3.5 hours

この授業は不合格となってしまった。11月の報告書に記したが、この秋学期に三日程風邪をひいて寝込んでしまった。丁度その時に実験日と重なり、参加することができなかった。それが後々まで尾を引いてしまった。実験のレポートが書けなかったからだ。宿題は毎週あり、これもまた未完成が多くなってしまった。それ以外にも思い通りの成果が出せなかったことが原因となった。座学はとても参加しやすいものだった。生徒は頻りに質問をし、意見を述べる。担当教員も生徒の理解

度を確認しながらの進行であった。まさにアメリカのクラススタイルと感じた。毎週金曜日は Quiz があり、理解度の確認があった。TA はとても親切で時間外の Office Hour もわかりやすかった。

ME 400 Energy Conversion Systems 3 hours

本授業は今学期一番苦労したものだ。主に Senior(学部4年)と Master(修士課程)の生徒が履修している授業で、多くがグループ課題のものだったからだ。グループ課題も後半にさしかかると、グループ内で厄介者となっていた。そうなる、私もやりづらい。グループ内でどのようにふるまってよいかわからなくなる。とにかく集まる時は一緒にいた。最初と最後のあいさつしか言えないときなど、悔しい思いは何度もあった。この授業はテストがない。成績は提出物だけで成績がつく。私の成績は、本当にグループのメンバーのたまものに他ならない。たぶんこれほど屈辱的なものはないと思う。本当に悔しいと思った授業だ。

ENG 491 Interdisciplinary Design Project 3 hours

この授業はどちらかというと、授業という感じがしなかった。KIT 夢考房フォーミュラカープロジェクトのように、本当に生徒だけのグループ活動であった。メンバーとは活動以外にも、食事などに一緒に出かけるなど和気あいあいとした付き合いができた。今学期の活動は、次期車両の設計であった。ユニークと感じたのが、この授業の成績は生徒同士でつけあうことだった。学期最後の週に担当教員から Excel ファイルが送られてきた。これにはメンバー全員の名前が載っており、活動の成果とともに、どのようにメンバーを感じるかなど多岐にわたった成績をつけるものだった。他のメンバーがどのように私の成績をつけてくれたのかわからないが、私はわかる範囲のメンバーの成績をつけて送った。最終設計のレポートに私は関わることができなかった。この活動の中では本当に雑務しかできなかつたと思う。しかし、彼らと一緒に活動できる時間が過ごせただけでも私には御の字であった。

履修科目全体を通じて

全体を通じた反省として、全てに満足いくような成果が残せなかつた。難しい授業を履修しすぎたこともある。授業を履修する上で大変良い環境であるが、それに私の力が及ばなかつた。私は提出物の多くを未完成で提出し、Quiz(小テスト)、Midterm や Final では、落第点またはそれに近い点数しかとることができなかつた。グループ課題においても、メンバーの力あってこそその成績であり、私の力は成果を上げることに及びもつかなかつた。グループ内で話をする時、いつもノートとペンが必需品となった。「こんなこと日本語なら簡単なのに」、当たり前と思うかもしれないが専門用語を用いた説明をはじめ、話をする時はとても難しく感じる。お互い内容が分かっているから、ちょっとした絵を描くことで内容がわかる。しかしこの作業が何とも面倒に感じた。全てにおいて、難しいというより自分の力量が足りなかつたと痛感し、大変残念でならない。春学期はこの悔しい思いがないように取り組みたい。

冬休み

12月中旬にFinalがあり、それが終わると大学周辺は急に静かになった。ENG491のメンバーの一部と最後の日にBarへ行った。この学期で卒業していくメンバーの送別も兼ねてのイベントであった。私達のいる寮以外はほとんどが締め、多くの学生は実家に戻った。私は旅行以外予定もなく、毎日を寮で過ごした。図書館や大学周辺の店はクリスマスの始まる週末から閉まり、クリスマスや大晦日など、これまでになく静かなものとなった。こちらにきて旅行という旅行を今まですることがなかつた。この冬休みは12月の最終週にナイアガラの滝へ、1月初めにシカゴへ行ってきた。

ナイアガラの滝旅行

冬休みも一週間を過ぎたある日、私は夏休みに行けなかったナイアガラの滝への旅行を思いついた。そこで同じ留学生の五十川君と中野君を誘って、一泊の旅行に行くこととなった。レンタカーを借りて、12時間の末ナイアガラの滝についた。こちらに来て三人とも車を運転するのはこれが初めてということもあり、道中は迷いながらもアメリカのハイウェイを緊張しながら走った。途中カナダへの国境越えをする際は、空港と違った雰囲気緊張もあった。しかしひたすら真直ぐ走る高速道路、高低差も少ない。アメリカの自動車社会において求められる車というのが、日本と大きく違うのだと、つくづく思った。到着日は天候が悪かった。ナイアガラの滝は想像以上に迫力があつた。残念ながら滝の下をくぐるなどは冬のためできなかった。滝周囲の散策を終え、夕食にはここ周辺の名産アイスワインを飲んだ。これは少量の凍ったブドウからできたワインで、とても甘くおいしいが、値段もなかなかのものである。帰りはトロント市内まで足を伸ばし、CNタワーやサイエンスセンターなどへ行った。ホテルでのチェックインの時間が予定と違うなど、問題もあつたが、大きなトラブルもなく楽しい旅行となった。

シカゴ旅行

夏の英語語学学校(Intensive English Institute : IEI)の日帰り旅行以来のシカゴである。前回はバスだったが、今回はレンタカーを借りて出かけた。そのためあまり行くことのできないChicago downtownの外へ行くことができた。アメリカでも有数の博物館「Museum of Science and Industry」は、第二次大戦中のドイツの潜水艦「U-505」の実物が丸ごと展示されている。他にもボーイング727型機の実物の半分や、ライト兄弟の製作した「ライトフライヤー号」の復元モデルなどが展示されていた。夜はシカゴ名物・ブルースの聞けるレストランへ行き、ブルースを聞いた。明けて次の日、迷いながらdowntownの外にある日本商品を取り扱っているマーケットと、シカゴのマーケットモールへ出かけ買い物を楽しんだ。この旅行でもアメリカの自動車社会を感じた。ちょうど通勤ラッシュの時間と重なり、朝と夕方は交通の込み合う時間となった。自動車が走る流れの速度が速いこと、片側五車線は普通の道路、合流時の割り込みと圧倒されるばかりだった。

今回は、秋学期の履修授業の感想と冬休みの様子を報告した。秋学期の成果は苦いものとなり、恥ずかしい面ばかりとなった。それとは反対のアメリカ生活でしか味わえない楽しい旅行の報告と、天と地の様な報告となった。次回は来学期の履修科目を報告したいと思う。1月中旬から春学期が始まる。秋学期の反省を生かし、後悔のない学期を過ごしたい。また一段と寒くなると思われるので体調管理に注意し励んでいこうと思う。